

令和4年第2回菊池市議会定例会は、6月24日から7月15日まで22日間開催されました。

令和4年度の一般会計補正予算では、**12億5,000万円**が追加され、一般会計予算の総額は**284億9,000万円**になりました。

今回の補正予算で主だったものは、新型コロナウイルス感染症対策事業として、プレミアム付き商品券事業(5,000円で1万円分)に、**5億円**。原油価格・物価高騰対策農業者支援金として、**1億4,700万円**。畜産競争力強化対策緊急整備事業に、**8,000万円**。コロナワクチン接種委託料に、**6,000万円**。旅館・ホテル等への宿泊客や、日帰り旅行者に対する助成金として、**5,400万円**です。

なお、プレミアム付き商品券販売収入(2億4,000万円)とコロナワクチン接種(全額、国と県からの臨時交付金)を除いた事業の約1割は、市の財源です。\*金額はわかりやすいように数値を丸めています。

### 《議論は出尽くした今こそ、議員定数削減!》

6月23日付け熊日新聞の新議長挨拶のなかで、水上議長は「議員定数削減の議論は避けて通れない」と強調されていたので、今議会において、もちろん全員協議会で議論されるものと思っておりましたが、議題にも上がらなかったため、定例会最終日に木下雄二議員を提出者として、福島英徳・二ノ文伸元議員・荒木崇之議員、大山宝治議員の4名が賛同者となり、議員定数を**20名から16名**に削減する条例改正案を提出しました。

私は、賛成討論の中で、「前議会の議会改革委員会や、これまでに提出した3回の条例改正案の中で議論は出尽くしている。5月の改選での無投票を受け、定数削減はやむなしである。4名の削減が多い、もしくは少ないと考える議員がいれば、是非とも**対案を出すべきだ!**」と意見を伝えましたが、採決の結果、**賛成:5、反対:14**で否決となりました。

### 安全対策はどうなった?! - 菰入新橋開通後の通学路 -



菰入新橋の架け替えに伴い、利便性が良くなることは地域住民の方はもちろん、利用者にとってもありがたいことではありますが、交通の流れが変わることによって交通量の増加による安全性も懸念されるところです。

菰入の区長さんはもちろんのこと、周辺地区の区長さんからも、子どもの通学路になっている道路に対する対策について要望され、これまでに令和2年12月と令和3年12月定例会で2回の一般質問を行いました。令和4年3月22日の開通式においても、地元区長さんや七城駐在所の警察官とも改善協議を行いました。

何よりも、区長さんや地元住民の方々のお力添えによって、横断歩道や自動車が減速するためのハンプと路面の表示、そして交差点には、止まれの標識が設置されることとなりました。



交差点に止まれの標識を設置



菰入地区内にハンプを設置



菰入新橋の板井側に横断歩道

### 《移動販売車 "きく丸号" が突然の廃止》

平成30年から、買い物困窮者の支援や見守りを兼ねて、第三セクター連絡協議会が運行していた移動販売車「きく丸号」を、6月29日の全員協議会で7月末に廃止するとの報告がありました。理由は、移動販売車の老朽化、人員不足、赤字が続き継続するのが困難だと理由でしたが、なぜ唐突にそれも廃止する1か月前の報告だったのか。

本来の主旨である買い物困窮者の支援がおざなりになってはいけないと思います。買い物支援だけでなく、見守り活動は、地域の方々にとっては心強かったはずですよ。

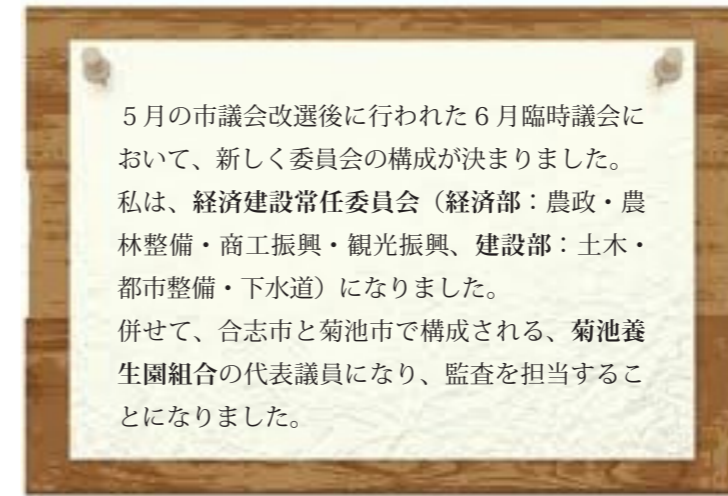
市としては、高齢化や過疎化が著しい今こそ、住民に寄り添う市政運営をなすべきではないでしょうか。



# 活動通信

菊池市政に民間企業での経験と、市議会議員としての4年間の経験で  
意思決定・政策のチェックの場に、培った視点を活かします

## 令和4年6月議会 vol.13 Kikuchi city council member Report 福島ひでのり



5月の市議会改選後に行われた6月臨時議会において、新しく委員会の構成が決まりました。私は、経済建設常任委員会(経済部:農政・農林整備・商工振興・観光振興、建設部:土木・都市整備・下水道)になりました。併せて、合志市と菊池市で構成される、菊池養生園組合の代表議員になり、監査を担当することになりました。



5月に行われました菊池市議会議員選挙では、合併後初の無投票ではありましたが、厳しいと言われる2期目の議席をいただくことができました。

私は、この4年間私利私欲ではなく、市民目線でブレることなく活動してまいりました。

中央図書館椅子の高額でかつ、不透明な入札問題から始まり、市長に監督責任がある三セク(メロンドームと温泉ドーム)の不当な接待費問題や、公共施設を削減している中で、本当に必要かどうか疑わしい防災倉庫に1億2,000万円を使うなど、とにかく多くの問題に直面してまいりました。我々議員は二元代表制の一翼を担い、執行部に対するチェックをするべき立場であるにもかかわらず、4人を除く15人の議員は執行部追認議会と揶揄されるありさまでした。

この4年間の議会活動において、賛同される市民の方の声を多く聞く半面、厳しい指摘をされる方も少なくはありませんでした。このように賛否ある中で、できれば無投票ではなく、私の4年間の活動に対してどのような評価が下されるのか、民主主義の根幹である選挙で審判を受け、議席をいただきこれからの活動に活かしていくべきだと思ったのが本音ではあります。

福島ひでのり.com

もしくは、右のQRコードを読み取って、ホームページやLineにアクセスしてください。



連絡先  
〒861-1357 熊本県菊池市七城町高田 640-1  
TEL: 090-5288-2466 (携帯)  
発行者: 菊池市議会議員 福島英徳

# 市民の声を市政に活かす 一般質問

## 半導体工場の菊陽町への進出について

**福島：**世界最大の半導体受託製造企業（ファウンドリー）である、TSMCの熊本進出が決まってから半年以上が経っており、情報収集や課題の把握を行ってこられたと思いますが、どのような活動を行ってきたのかをお聞かせください。

**政策企画部長：**本年1月に、市長を本部長とする「半導体関連企業等進出に係る菊池市活性化推進本部」を設置し、2月にはこの本部の下部組織として「産業振興促進部会」「道路・交通・住環境部会」「人材育成・教育環境部会」「生活サポート部会」の四つの作業部会を設置し、具体的な課題や施策の検討を進めてる。

本部会議についてはこれまで4回開催しており、TSMC関連事業者からの相談に関する情報共有や、居住誘導候補地域、移住・定住に向けた支援策の検討などを行っており、各作業部会ではTSMCの進出スケジュールに合わせた施策のロードマップの検討や、不動産業者との意見交換による事業者側のニーズなどの把握などを行っている。

課題としては、企業誘致や居住誘導を進める上での農地における農業振興地域などの規制、道路・上下水道などのインフラ整備、外国人向けの窓口などにおける多言語対応などが挙げられている。

また、今回のTSMC関連の開発に当たっては、工場・住宅・道路・教育など極めて短期間に広範囲の課題を解決していく必要があるため、戦略的に取り組んでいく必要がある。

工場誘致については、県営工業団地の造成に全面的に協力することでスピードアップを図り、本市としては住宅誘致に極力特化していきたい。

**福島：**先端技術の半導体製造に欠かせないのが、高い技術力を持ったエンジニアであることはいまでもありませんが、併せて高い技術力のある半導体設備メーカーも重要になってきます。

製造メーカーは在庫を極力持たない傾向にありましたが、今もなお続くコロナの影響で在庫ゼロが

及ぼした影響から、在庫はある程度持つように方向性を変えるようにはしているようです。しかしながら、メンテナンスやサポート面においては、工場に近いところを選んで進出する傾向は変わりません。

関連企業誘致において菊池市は、TSMC熊本工場新設場所に、立地条件（通勤時の渋滞は少なく、土地の価格）において、近隣自治体に比べて大いに優位性があると、私は考えます。

チャンスを掴むには、特にスピードが必要であり、そのスピードには計画性が必要です。計画とスピードでどのような舵を切るか。今、大きな岐路に立っています。

このような、またとないビッグチャンスを目の前にして、どのようなグランドデザインを描かれ、マスタープランが作成され、ロードマップが作られているのかをお示しください。

**政策企画部長：**市のグランドデザインということだが、今回の旭志地域の過疎地域指定、TSMC熊本工場や中九州横断道路などの地理的条件を踏まえ、TSMC進出に伴い設置した「半導体関連企業等進出に係る菊池市活性化推進本部」において、企業誘致や宅地造成を誘導する地域の検討を進めており、これらを踏まえたグランドデザインについては、都市計画などの各種計画への反映を含め、国や県とも協議しながらしっかりと検討してまいる。

**福島：**先ほど申しましたように、スピード、計画性、これを最重点課題として取り組まないと、本当にこのチャンスをなくすと思いますよ。抽象的なことではなく、また、国や県の動向とかじゃなく、市独自でできることはたくさんあると思います。どの自治体も、今、一生懸命にやっているんです。

ぜひとも具体的な計画を立てスピーディに取り組んでいただきたいと思います。



## 子育て世帯への支援体制について

**福島：**菊池市では子育て支援の充実を謳われていますが、子育て世帯に対して行っている支援の内容をお聞かせください。他の自治体と比較して、菊池市が充実していることをアピールしていただいても結構です。

**健康福祉部長：**経済的な支援としては、各種手当の支給や医療費の助成を実施し、子育て世帯の経済的な負担軽減を図っている。

このほか、特色のある本市の子育て支援事業としては、第3子目以降の出産祝い金として「すくすく子宝祝金事業」や「ファミリーサポートセンター事業」における第2子以降の利用料の無償化、低所得の多子世帯に対する保育所での副食費の補助、保育所において医療的ケアが必要な児童の受入れ体制の整備などを実施している。

**福島：**兵庫県明石市の泉房穂（ふさほ）市長が、令和4年6月7日に、参議院内閣委員会に「子ども施策で、人口増・経済好循環」～決断すれば実行可能～というタイトルで参考人説明をされています。また、同時期の新聞記事には「主要先進国の中で、日本は国内総生産（GDP）比で公共事業費は高いが、子ども関連予算は2%にも満たない低水準だ。家計でいえば家の修繕ばかりで、子どもの教育費や食費にかけないようなものだ」とのコメントも記載されていました。

明石市の取組みを述べさせていただきましたが、先ほどの答弁にあった菊池市の子育て世帯への支援内容も、担当課として現状やれる範囲では精一杯やられているのだと思います。

しかしながら、本気で子育て世帯を支援したいと考えるならば、先進自治体の取組みを積極的に取り入れて実行することこそ、子育て世帯に対する手厚い支援と言えるのではないのでしょうか。

それではもう少し範囲を絞って質問いたします。知り合いのおじいちゃんや、おばあちゃんの話ですが、今のランドセル価格は5万円から7万円ぐらいです。また一人であればまだしも、何人も孫が入学すると嬉しい反面、結構な負担になってしまう。

できれば山鹿市みたいに、就学時にランドセルを菊池市でも無償支給してもらえないだろうか。といった内容です。

そこでお尋ねします。令和元年の一般質問においては、ランドセルの一律支給は考えていないと答弁されていますが、それから3年が経ちコロナ禍により経済状況も各家庭によっては大きく変化していると思いますが、本市においては就学時にランドセルを無償支給する考えがあるのかを、改めてお聞かせください。



**健康福祉部長：**県内で実施している自治体が3か所と多いものではないこと、一人ひとりの個性に合わせたランドセルの支給に対することなどの課題があること、ご家庭によってはランドセル購入自体が家族からのお祝いの意味があることなどの理由から、本市において、ランドセルを支給することは、今のところ考えていない。

**福島：**菊池市にも就学援助制度があることは承知しています。私は、先ほど明石市の取組みを伝えたとおり、全ての子どもたちへの支援が必要だと考えます。就学援助支援とは別に、全ての就学児童・生徒に対して、必需品を無償提供することが子育て世帯への手厚い支援といえるのではないのでしょうか。ランドセルが支給されれば、経済的に厳しいご家庭では、ランドセル代をほかの用途に使うこともできるわけです。

ランドセルの無償支給には高い壁がありそうですので、改めて提案します。小学校、中学校への就学時に、学校制服を無償支給するのはいかがでしょうか。自由に選べる多種多様なランドセルとは違い、制服は学校ごとに決まっているため、自由に選べず、かつ必需品だからです。

すべての子育て世帯に対する、子育て支援の一環として提案しますが、考えをお聞かせください。

**健康福祉部長：**全国的にも実施している自治体が少ないことと、地域での譲り合いの活動が行われていることなどから、今のところ制服の支給については考えていない。